

花畑横の小屋でセ  
ックスをするスワ  
ッピングパートナ  
ー男女6人

紫色にいかにも花っぽい白が混ざる紫  
陽花（あじさい）。

海辺の丘にその畑があった。

しかしそれはもどきであり、

実際の紫陽花ではないのだが。

夏は太陽が照りつけとても暖かい丘の  
ような場所である・・・・。

観光名所というよりは誰も知らない穴  
場という感じ。

そこで出会い、夜の激しい営みの間柄と  
なった6人の男女がいた。

.....ひと夏の物語

ではなく・・・・・・・・この出会いと関係性は長年にわたって続いた。

6人の共通点は・・・・・・・・求めていたということだ。

夢を追い・・・・・・・・疲れて

だからこそ求める肉欲は増えて

少し俯（うつむ）きもうあきらめよ  
う・・・・・・・・

としたその時

そこに霞（かす）んだ花畑が・・・・。

覚束ない足取り . . . .

あきらめかけて見る大量の薄い白の紫  
の花々は

青年一人の心を少しでも気休めにし

丘の上までなんとか上がることが出来た。

そんな背中に温かく小さな手が触れ

る . . . . .

茶髪のまつ毛が長い女性。

香水とシャンプーの入り混じった女性らしい匂いだった。

くいつ！！

と背中をのけ反らせたなら自然と綺麗な  
お尻が出っ張り自然の中でそのいやら  
しさを主張する。

すらりと背筋が伸びている。

晴れの日のこと。

コンクリート通路を挟んで向かい側に

公衆トイレがあった・・・

・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ・ ○

「ほんとの癒しってさ・・・」

つまらなさそうにその女性は吐き捨てた。

・・・・・・・・花を見たりすることなんかじゃないよね・・・・・・・・

それは夜を意味する。

チラッと紫陽花もどきの畑に目をやっ  
たあと

女子はつまらなさそうにペニスを啜え  
た。

(体験版は以上になります。ご読了ありがとうございました)